

ゼロカーボンアクションレポート Vol.2

「できることから始めよう、暮らしを脱炭素化するアクション！」としてゼロカーボンアクション 30+1 に参加いただいた方々の中から、取り組んだきっかけや内容、成果や良かったことなどについて、レポートにご協力いただきました。皆さんの参考にしていただきたくご報告します。

【我が家のゼロカーボンアクション】 狩川地区在住 K・Mさん

Q1. ゼロカーボンアクションに取り組んだきっかけをおしえてください。

A. 住宅の老朽化に伴って建て替えを検討するにあたり、一生に一度の家づくりの機会なので、多くのハウスメーカーの中から断熱性能、気密性能、耐火性能などにこだわりを持った業者を選定し、太陽光パネル付きの創エネ省エネ住宅に取り組んだことがきっかけでした。

Q2. 取り組んだ具体的な内容をおしえてください。

A. 太陽光パネル設置(12kw)及び蓄電設備を設置しました。

ZEH 対象戸建住宅で創エネ省エネへの取組み、省エネ家電(エアコン、LED 照明、節水節電型トイレ等)を導入しました。

住宅の高断熱化、高気密化を高めました。

ハイブリッド式給湯器+床暖房を設置しました。

ガソリン車からPHEV車へ買い替えました。

Q3. ゼロカーボンに取り組んだ成果や良かったことなどをおしえてください。

A. 太陽光パネル発電システムによる売電収入は自家消費分を除いて年間約18万円でした。

ZEH 対象の創エネ省エネ戸建住宅への建替えにより、年間の発電量と消費量を比較した場合の自給率は150~160%となった。ただし、電気料金で比較すると売電料金の単価は買電料金の単価より低いので、收支は概ねトントンでした。

建替え前の暖房器具は各部屋にあった石油ファンヒーターが中心で、年間灯油代は約15万円であったが、ハイブリッド式給湯器による床暖房に切り替えたことで0円になり、さらに、電気・ガス・水道などの光熱水費については、それぞれ使用量及び使用料金ともに建替え前より減少しました。

各部屋のほか玄関・廊下・トイレ・お風呂場まで全館床暖房のため、家の中ではヒートショックの心配がなくなり、高齢者が冬場も快適に過ごすことができました。

自家用車をガソリン車からPHEV車に買替えたことで、年間約16万円分のガソリン代がほぼ0円で、200V充電料金が年間約5~6万円なので差し引き約10万円の節減となりました。(日頃の通勤や買い物等では電気で走行し、遠距離ドライブのみガソリン使用)

Q4. 今後、取り組んでいきたいことがありましたらおしえてください。

A. 今後も家電備品等の更新時には、より省エネ対応のものに切り替えていきたいと思っています。

また、クールビズ・ウォームビズ、食品ロス削減、こまめな電源オンオフなど普段できる取り組みを継続して節約節減に努めています。

Q5. これからゼロカーボンアクションに取組む方へアドバイスがありましたらおしえてください。

A. 創エネ省エネ設備の導入にあたっては、初期投資・更新費用など経費面での負担感は大きいと思いますが、その維持費や効果などを考慮した長期的な視点と地球環境を考えた俯瞰的な視点で取り組むことができればいいですね。